

令和 3 年 度
事 業 報 告



社会福祉法人

塩尻市社会福祉協議会

令和3年度事業報告概要

I 法人改革

1 社会福祉法人としての公共性の確保

- (1) 社会福祉事業による公共性の高い経営を実施しました。
- (2) 基本方針・目標及び重点施策・事業を明確にして、計画的な事業展開を行いました。
- (3) 経営状況の公表等により、透明性、中立性、公正さの確保を図りました。
- (4) 福祉分野におけるSDGsの実践に努めました。
- (5) 理事・監事・評議員の任期満了に伴う改選により、新たな経営体制を構築しました。
- (6) 職員参加による経営戦略会議を設置し、法人経営の課題解決に取り組みました。

2 人材の確保・育成と組織づくり

- (1) 新規採用職員を確保するとともに、職員研修の実施と人材育成を進めました。
- (2) 第3次発展・強化計画に基づき、組織の基盤強化を進めました。
- (3) 介護職員初任者研修を開催し、介護職員の養成を図りました。
- (4) 職員の法人経営への理解を深め、知識・技術の向上を図るため、所属事業所以外での職場体験研修を行いました。

3 法人の基盤強化

- (1) 事業の効果測定やコスト把握等の事業評価を適切に行い、効果的かつ効率的な自律した経営を行いました。
- (2) 中長期計画（財政計画）に基づいた健全な財政運営を進めました。
- (3) 「働き方改革」として同一労働同一賃金を実現するため、職員待遇の見直しを実施し、より働きやすい職場環境を整備しました。

4 新型コロナウイルス感染防止対策

- (1) 国、県、市の情報を適時・的確に把握し、変化する状況に応じて、各事業所における施設、利用者、職員等の感染防止対策を徹底することにより、安心・安全な福祉サービスの提供に努めました。
- (2) 市対策本部の対応方針に基づき、松本圏域及び市内の感染状況に応じて、支部研修会、懇談会、各種行事、講座等を縮小、延期又は中止としました。
- (3) 昨年に引き続き塩尻市社会福祉大会の開催を中止としましたが、昨年度及び本年度の特別功労者、模範善行者及び福祉事業協力者への表彰状授与式を行いました。
- (4) 感染又は濃厚接触となった職員、利用者等への対応について、保健所等の指示及び対応マニュアル等に従い、迅速かつ的確な感染拡大防止対策を実施しました。

Ⅱ 地域福祉の推進

1 第5次地域福祉活動計画の推進

- (1) 「新しい生活様式に対応した活動マニュアル」を見直して関係者に配付し、新型コロナウイルス感染予防を行う中での地域福祉活動の相談支援に取り組みました。
- (2) 地域共生社会の実現に向け、市及び関係機関・団体等と情報交換し、包括的な支援体制構築の検討など、継続的な取り組みを始めました。
- (3) 市民主体の福祉のまちづくり、支え合いづくりを進めるため、市支所や公民館、地域役員等と連携して地域課題の情報共有を図るなど、支部分会活動を支援しました。

2 生活支援

- (1) 生活就労支援センター「まいさぼ塩尻」において、新型コロナウイルス感染症対応を含め、自立支援や家計改善、生活福祉資金の特例貸付などにより、生活困窮者等の相談支援を進めました。
- (2) 食品ロスを削減するとともに食料資源を有効活用するため、フードドライブ活動に積極的に取り組み、生活困窮者等への食料支援につなげました。
- (3) 判断能力が不十分な方を支援するため、日常生活自立支援事業やくらしのあんしんサービス事業を実施しました。
- (4) 成年後見支援センターに市の受託事業による中核機関を新たに設置し、成年後見制度の広報啓発及び利用促進を図りました。

3 ボランティア活動の振興

- (1) ボランティアセンターの運営により、市民の福祉活動への理解を促進し、地域におけるボランティア活動を支援しました。
- (2) 塩尻ライオンズクラブ及び塩尻桔梗ライオンズクラブと協定を締結し、災害時におけるボランティア支援体制の構築に取り組みました。

Ⅲ 介護サービス、障害福祉サービス事業

1 利用状況

- (1) 令和3年度の介護保険事業の延利用者は、全体で 58,404 人となり、前年度(59,082 人)と比較して 678 人の減(98.9%)でした。
- (2) 障害福祉サービス事業の延利用者は、全体で 29,371 人となり、前年度(28,784 人)と比較して 587 人の増(102.0%)でした。

2 情報共有

- (1) 法人内外での情報共有のため、所属長による企画調整会議及びグループ会議のほか、

介護保険事業所連絡会、障害福祉サービス事業所連絡会及び地域福祉連絡会を開催しました。

- (2) 新たに設置した経営戦略会議をはじめ、発展強化推進委員会、職場内会議などの定期的開催により職員間の情報共有及び経営参画への意識改革を進め、職員全員による事業所経営への取組みを実践しました。

3 高齢者自立支援・重度化防止

- (1) 利用者の自立支援・重度化防止のため、全デイサービスセンターで個別機能訓練及び口腔機能向上訓練を実施しました。
- (2) 市から受託している西部地域包括支援センターをはじめ、関係機関等と連携し、利用者のニーズに沿った介護保険事業を推進しました。

4 障害者相談支援事業の受託

松本障害保健福祉圏域市村からの受託により、障害者総合相談支援センター「ボイス」に相談員を派遣しました。

IV 指定管理事業等

1 ふれあいセンターの管理運営

- (1) 市から指定管理者の指定を受けている、ふれあいセンター広丘、ふれあいセンター洗馬、及びふれあいセンター東部の3館、並びにふれあいセンター洗馬に併設されている洗馬児童館について、継続して管理運営を行いました。
- (2) 指定管理の中間年度として、ふれあいセンター東部の外部モニタリング評価が実施されました。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大による小学校の分散登校に対応し、洗馬児童館の開館時間等を拡大するとともに、利用料の減免等を実施しました。

2 市からの受託事業の実施

市からの事業委託を受け、地域活動支援センターすみれの丘、西部地域包括支援センター（2年目）及び成年後見中核機関（新規）を設置、運営しました。

令和3年度の事業所事業報告

**所属名
(事業所名)**

総務課

開所状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
-------------	-------------	----------------------------	-------------	------

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民に見える社協活動とするため広報を充実します。	広報啓発	第52回塩尻市社会福祉大会中止 会長表彰については、昨年度の被表彰者とともに表彰状授与式を行った。 令和3年9月18日(土)	令和4年度の社会福祉大会開催に向け、安全に参加していただけるよう、内容と対策の検討を行う。
		ホームページ見直しのための検討 5回 新しいホームページの研修 1回	社協の活動や地域福祉について、広く住民に知っていただくための手段として、新しいホームページが軌道にのり、活用されるよう定期的に解析し、必要な箇所を修正していく。
積極的に人材育成を行い、組織基盤を強化します。	人材育成、組織づくり	職員キャリア別研修の実施参加(新任～管理者) 13人 新人職員研修 7回 (社協内職場実習 1回含む) 嘱託、非常勤職員職場体験研修 1回 延8人 チューター会議 1回 4人	職層ごとの役割と、地域福祉の視点を持った人材の育成を目指し、今後も継続して研修会を開催する。
		経営戦略会議 7回 介護保険事業の喫緊の課題について、状況を分析。対策を検討し実行	今後の状況をみながら、協議すべき課題を取り上げて検討する。 中長期計画の後期計画の見直しを行う。
		苦情解決委員会 1回 件数 4件 施設に対する希望や職員の対応に関する苦情の解決	苦情を適切に解決し、利用者の満足度を高めるようにする。
職員同士のつながりや働きやすい環境を整え、職員が輝いて働ける組織を作ります。	第3次発展・強化計画の推進	発展強化推進委員会 9回 2班に分かれ、「地域福祉の推進」と「組織の基盤強化」について検討 発展強化研修会 2回 密を避けるため、3か所に分散して開催した。	計画の検証、評価を行い、第4次の発展・強化計画に反映させる。
	職員健康管理	ストレスチェックの実施 実施者数 101人 高ストレス者 11人	今後も職員の健康管理に気を配り、早期に対応できるようにする。
	職員共済会活動	誕生日プレゼントの配布 共済会に加入している職員へ希望のプレゼントを配布した。	職員が楽しむことができ、コロナ禍においても職場の活性化につながるような共済会活動を行う。

会費実績

(単位:円)

年度	普通会員			特別会員		法人会員		合計
	世帯数	口数	金額	件数	金額	件数	金額	金額
令和3年度	15,640	15,419	7,710,300	13	41,000	41	151,000	7,902,300
令和2年度	15,703	15,600	7,800,010	19	70,000	33	112,000	7,982,010
増減	△56	△166	△86,210	△6	△29,000	8	39,000	△76,210

共同募金実績

(単位:円)

	個別	法人	学校、職域	街頭、イベント	個人大口	ハートフルベンダー	その他	合計
令和3年度	12,175,000	653,774	293,632	9,212	10,000	38,058	82,278	13,261,954
令和2年度	12,318,674	694,500	296,857	0	0	107,698	21,318	13,439,047
増減	△143,674	△40,726	△3,225	9,212	10,000	△69,640	60,960	△177,093

寄付金実績

(単位:円)

年度	個人		団体		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和3年度	12	751,969	80	2,301,059	92	3,053,028
令和2年度	11	909,167	85	4,053,972	96	4,963,139
増減	1	△157,198	△5	△1,752,913	△4	△1,910,111

職員数

(単位:人)

年度	令和3年度				令和2年度			
	正規	准正規・嘱託	パート	合計	正規	准正規・嘱託	パート	合計
総務課	4	5	2	11	4	4	2	10
訪問ケアセンター	12	2	59	73	10	2	62	74
居宅介護支援事業所	4	2	4	10	4	1	5	10
すみれの丘	9	6	26	41	7	7	27	41
そよ風の家	4	1	7	12	3	1	8	12
みどりが丘	0	3	6	9	2	2	4	8
すがのの郷	5	4	25	34	5	4	29	38
田川の郷	4	1	21	26	4	1	22	27
みどりの郷	4	2	15	21	3	3	17	23
つくしの郷	3	0	23	26	3	1	21	25
地域福祉推進センター	7	2	4	13	7	1	4	12
ふれあいセンター洗馬	3	3	18	24	2	4	16	22
ふれあいセンター広丘	2	1	16	19	3	0	13	16
ふれあいセンター東部	2	1	15	18	3	0	12	15
合計	63	33	241	337	60	31	242	333

(単位:人)

令和4年3月31日現在

※総務課に常務理事・地域福祉専門幹、事務局長を含む。

※産休中、休職中の職員も含む。

	正規	准正規・嘱託	パート	合計
令和3年度	63	33	241	337
令和2年度	60	31	242	333
増減	3	2	△1	4

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

地域福祉推進センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
------	------	----------------------------	------	------

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
支部・分会対象の研修を行い、支部・分会活動を支援します。	支部・分会活動の支援	支援回数 172回 来所、訪問、会議、研修等の方法により支援。庁内連携を密に行うことにより、関係課と地域課題を共有し、事業に取り組んだ。	支部福祉懇談会等で出された地域課題の解決を進めるとともに、コロナ下での活動に不安を抱える地域の相談対応を丁寧に行う。
地域の人とつながり、生きがいをづくりや介護予防に取り組めます。	ミニデイ等元気づくり広場の支援	・元気づくり広場等支援 48分会127回 参加者 2,638人 ・介護予防プログラム4種 参加者 562人	モデルとなる活動プログラム等を記した手引書を作成・配布するとともに、情報交換会を必要に応じて開催する。
地域での介護予防活動を支える担い手を育成します。	担い手の育成	・福祉サポーター養成講座 5回 ・福祉サポータースキルアップ講座 2回	地域住民が分会役員だけに頼らず、自主的に介護予防に取り組むことができるよう「お元気づくりカフェ」を開催。担い手発掘・養成を行う。
関係機関と連携し経済的困窮状態の解消を図ることができるよう支援します。	資金の貸付	・県社協貸付 13件 ・市社協貸付 57件 ・コロナ特例貸付 相談件数 1,201件 貸付件数 296件	引き続き貸付相談者は多いと思われるため、迅速に相談対応していく。貸付を複数回行わないと生活ができない状況とならないよう、助言をするとともに、必要な情報提供を行う。
「生活困窮者の自立と尊厳の確保」、 「生活困窮者支援を通じた地域づくり」に取り組めます。	生活困窮者相談支援事業	・新規相談件数 279件 ・継続相談件数 1,077件	困窮以外の課題を抱えている世帯が見受けられるため、関係各所と連携し対応していく。
	家計改善支援事業	プラン作成者 7件	相談者自身が家計の課題に気づき、自立して家計が遣り繰りできるよう助言、支援を行う。
自立支援や金銭管理サービス、家計支援等を通し、個人の尊厳と意思が尊重され、その人らしい生活を送ることができる福祉サービスの実現を目指します。	日常生活自立支援事業 (県社協受託)	利用件数 41件	ケース検討を定期的に行い、自立を目指した支援を行う。また成年後見制度への移行、他の制度の利用を検討し、利用者の状況に応じたサービス提供を行う。
	くらしのあんしんサービス (市社協)	利用件数 8件 判断能力が不十分な方以外の利用もできるよう規定を改正。(R4～)	

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民後見人養成講座受講生のフォローアップや法人後見支援員としての業務を通し、市民後見人の育成に取り組みます。	後見人の担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> 市民後見人1人誕生。(法人との複数後見による) 市民後見人養成講座 4日間 法人後見支援員希望者 10人 市民後見人フォローアップ中止 	法人後見支援員として、実際に経験を積んでいただき、市内で市民後見人として活躍していただけるよう支援する。
災害発生時におけるボランティア活動者を増やします。	災害ボランティア登録・育成	<ul style="list-style-type: none"> 災害救援ボランティア登録 1,371人 塩尻ライオンズクラブ、塩尻桔梗ライオンズクラブとの自然災害時における支援協定締結 	緊急時に迅速な対応ができるよう、他機関との連携体制を整備する。また、災害ボランティアとのつながりを強め、活動に対するニーズを把握し、緊急時に備えた役割分担と、活動フォローを行う。
ボランティアへの関心を高め、活動を後押しします。	ボランティア情報の収集と発信	<ul style="list-style-type: none"> LINEでのボランティア情報発信 市内施設へボランティアニーズ調査 ボランティア相談 88件 	<ul style="list-style-type: none"> 更なるLINEの活用研究、社協HPと連動した情報発信をしていく。 他機関との連携により、多分野におけるボランティア活動をコーディネートすることで、福祉の分野だけにこだわらない支え合いのまちづくりを目指す。
	福祉学習	福祉学習活動支援 68回	公民館等社会教育機関との連携を図りながら、福祉教育の理論に基づいた地域を支える人材養成を行っていく。
送迎サービスの周知と拡充を図ります。	送迎ボランティアの育成	<ul style="list-style-type: none"> 利用会員 46人 協力会員 19人 利用件数 869件 	高まる送迎サービスのニーズに対応するため、他のサービス、事業と連携して新規協力会員登録者を増やす取り組みをする。

福祉協力員数 (単位:人)

	福祉協力員
令和3年度	338
令和2年度	339
増減	△1

ボランティア活動者

	団体		個人
	団体数	人数	人数
令和3年度	137	3,003	40
令和2年度	106	1,651	66
増減	31	1,352	△ 26

活動補助

	令和3年度		令和2年度		増減	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
見守りネットワーク	66	2,438,400	66	2,344,000	0	94,400
ふれあい食事サービス	41	1,895,250	43	1,707,000	△ 2	188,250
おせち料理サービス	10	575,200	9	580,800	1	△ 5,600
ミニデイ等元気づくり	61	2,429,700	63	2,388,750	△ 2	40,950
地域福祉活動振興事業	45	1,140,335	56	1,420,000	△ 11	△ 279,665
子育てサロン	9	180,000	12	240,000	△ 3	△ 60,000
縁側づくり	2	24,000	0	0	2	24,000
ボランティア活動保険補助	1,525	228,750	1,686	251,100	△ 161	△ 22,350
社会福祉普及校	13	390,000	16	480,000	△ 3	△ 90,000

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

ふれあいセンター洗馬

利用状況	開所日時	火曜日～日曜日 祝日の翌日、12/29～1/3除く 午前9時～午後7時	開所日数	301日
	登録者数	6,957人	延利用者数	18,139人(1日60人)

延利用人数	団体	個人	地区講座	介護予防	その他講座	計
令和3年度	1,129	15,256	857	603	294	18,139
令和2年度	824	11,924	667	471	231	14,117
増減	305	3,332	190	132	63	4,022

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民の主体的な地域福祉活動を支援します。	西部圏域の地域福祉活動の推進	社協支部、分会等との連携 子育てサロン支援 5回 66人	地域福祉活動の拠点施設として支援できる内容を提示し、職員が地域に出向き、地域に点在している担い手や社会資源をつなぐ役割を担う。
		総合相談事業 ・相談区分 福祉相談 299件 ボランティア相談 35件 有償福祉サービス 132件 福祉学習 42件 地域支援 114件 健康相談 3,441件 介護相談 4件 ・相談形式 電話 416件 訪問 81件 来所 39件 会議 21件	相談しやすい、身近な福祉総合相談窓口となるよう、柔軟かつ適切な対応に努める。 総合相談窓口としての機能を地域に根付かせる。
		講座の開催 ・ふれあい講座(目標6回72人) あづま袋作り 1回13人 ほう葉巻きづくり 1回 8人 親子でリフレッシュ エクササイズ 1回10人 睡眠講座 1回19人 筋力UP体操 1回13人 体コンディショニング 1回17人 ・地域いきいきボランティア活動講座(目標 3回45人) ボランティア講座 3回40人 ・災害支え合い講座1回10人 ・自主グループ活動育成支援 3グループ	ニーズをとらえた企画、支援により、習得したことを講座終了後に生かせる場を紹介し、楽しみながら活動を継続できるよう支援する。 自主グループとして活動が継続できるよう、情報提供や必要な支援を行う。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
市民の主体的な地域福祉活動を支援します。	西部圏域の地域福祉活動の推進	福祉学習の推進 ・西部圏域 西部中学校 2回 180人 洗馬小学校 2回 89人 洗馬児童館 2回 73人 ・他の圏域 塩尻中学校1回、広陵中学校1回、丘中学校2回、県教育センター1回	圏域内の未実施校に、働きかけ実施につながった。市内児童館や小中学校に対し、福祉教育のプログラムを具体的に提示し実施に向け働きかける。
	西部圏域地域福祉ネットワークづくり	・区長会、民協地区会 洗馬地区区長会 3回 檜川地区区長会 1回 洗馬地区民児協 6回 宗賀地区民児協 7回 檜川地区民児協 4回 ・支部分会支援 支所長打合せ 8回 宗賀公民館行事 2回 支部福祉懇談会 3回 西部圏域3地区意見交換会 桔梗ヶ原支え合い委員会 2回 支え合いマップ更新 計30名 ・ケースの共有、連携の強化 西部包括・CSW会議 3回 生活支援コーディネータ会議 3回	民生児童委員等の会議に参加し、地域の状況を把握し課題共有、解決に向けた支援を行う。 個別支援を通して集まった課題を地域の課題として、住民に自分のこととして捉えてもらえるような関りをする。
	有償福祉サービス事業の実施	西部圏域 サポーター新規登録 9人 利用者新規登録 8人 サービスの提供 26回 活動時間 42.5時間 新規相談 18件 継続相談 51件	担い手を増やす取り組みと併せてサービスを必要とする人に情報が届くよう地域の会議や包括支援センター等を通じて事業の内容を具体的に伝えていく。
	洗馬お元気食堂の開催	(目標年4回) ボランティア会議 3回 25人 洗馬お元気食堂 1回 25人 ※2・3回目はコロナ感染症拡大のため中止。うち1回はフードパントリーを実施	ボランティアが参加しやすい運営方法を検討。世代間交流や、孤立の防止を始め潜在的な課題を吸い上げることができるよう関係づくりを築く場となる。
幅広い世代にふれあいの場を提供し、交流を促進します。	延利用者目標 16,500人/年	延利用者数 18,139人 前年度比 個人利用者 3,332人増 団体利用者 305人増	感染防止対策を継続し、安心して利用していただける施設とする。 幅広い世代の利用者が増えるよう更に周知していく。

洗馬児童館(児童館)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前10時～午後6時 塩尻市立洗馬小学校の休業日・土曜日 午前8時半～午後6時	開所日数	285日
------	------	--	------	------

延利用人数	幼児	小学生	中学生	高校生	一般	計
令和3年度	13	43	35	0	17	108
令和2年度	35	33	0	0	35	103
増減	△22	10	35	0	△18	5

洗馬児童館(児童クラブ)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 下校時～午後7時 土曜日 午前8時～午後6時 塩尻市立洗馬小学校の休業日 午前8時～午後7時	開所日数	284日
------	------	---	------	------

延利用人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
令和3年度	3,629	1,186	2,584	357	459	0	8,215
令和2年度	2,155	3,012	1,202	769	18	371	7,527
比較	1,474	△1,826	1,382	△412	441	△371	688

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
安心、安全な子どもの居場所になるよう、放課後の遊び及び生活を支援します。	放課後児童クラブ・放課後キッズクラブ	児童クラブ登録者 77人 キッズクラブ登録者 1人 避難訓練 2回 65人 お話し会 5回 118人 七夕会 1回 39人 福祉教室 2回 72人 クリスマス会 2回 81人	新型コロナウイルス感染予防のため、日々の消毒を念入りに行う等、子どもたちにとって安心して過ごせる場所として、遊びや生活を楽しむことができるよう環境の整備に努める。 緊急時には適切な対応ができるようにする。 生活や遊びを通して異年齢の関わりを大切に友だちとの友情を育み、一緒に過ごす楽しさを支援する。
地域に開かれた施設づくりを行い、児童館をPRします。	児童館・放課後児童クラブ・放課後キッズクラブ 地域交流	ふれあいセンター洗馬講座受講者からの折紙作品プレゼント 45個 ふれあいセンター洗馬講座受講者へ、手作りビーズストラッププレゼント 100個 お元気食堂への参加 1回3人 公民館主催書き初め会 10人	地域の方たちが世代を超えて児童館に興味関心を持っていたり、ただけのような交流活動は、新型コロナウイルス感染予防のため、例年のように実施できなかったが、今後、ふれあいセンター洗馬の利用者に、子ども達の作品を見て頂いたり、手作りの物をプレゼントする等、交流方法を工夫していく。
児童の遊びと生活の援助と、地域における子育て支援を行います。	児童館利用者の個別的・集团的指導・育成事業	つどいの広場 講座 3回 10人 つどいの広場施設利用 20人 自由来館・施設利用者 108人	新型コロナウイルス感染予防のため、市の方針でつどいの広場や児童館としての利用を控えて頂くという期間が長く、支援事業は実施できない状況にある。 新型コロナウイルスの感染状況に考慮しながら、子育て中の親子が安心して利用できる施設としての役割が果たせるよう努める。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

ふれあいセンター広丘

利用状況	開所日時	火曜日～日曜日 祝日の翌日、12/29～1/3除く 午前9時～午後7時	開所日数	301日
	登録者数	5,111人(個人)	延利用者数	33,198人(1日109.9人)

(単位:人)

延利用人数	団体	個人	介護予防講座	地区講座	健康運動教室	その他の講座	合計
令和3年度	4,432	25,910	878	659	1,049	270	33,198
令和2年度	4,328	22,144	780	711	412	261	28,636
増減	104	3,766	98	△ 52	637	9	4,562

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域福祉活動の拠点施設として市民の活動を支援します。	北部圏域における地域福祉活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の開催 地域いきいきボランティア活動講座(しおりんサポーター・地域住民向けスキルアップ講座) 2回 17人 地域福祉講座(災害時支え合い講座、障がい理解啓発座) 2回 44人 地域づくり啓発講座(しおじりつながるプロジェクト) 4回 延べ32団体 ・社協支部・分会等との連携 分会研修会 1回 36人 ・住民福祉活動の支援 ボランティア団体登録支援 1団体 子ども虐待防止啓発イベント開催支援 1回 	<p>コミュニティーソーシャルワーカーを2人体制とし、地域に向く回数を多くし、より細やかに地域へ出向き、必要とする者への支援に取り組む。 住民活動への支援を進め、活動者への支援とともに地域の資源を増やせるよう取り組む。</p>
		<p>総合相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談区分 福祉相談 306件 ボランティア相談 17件 有償福祉サービス 194件 福祉学習 18件 地域支援 83件 健康相談 4, 652件 介護相談 5件 ・相談形式 電話 276件 訪問 138件 来所 172件 会議 43件 	<p>総合相談窓口として関係機関と連携し、各種相談にはスピード感を持って対応する。</p>

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域福祉活動の拠点施設として市民の活動を支援します。	北部圏域における地域福祉活動の推進	福祉学習の推進 学校への福祉学習の協力 広陵中学校・丘中学校 12回 658人 企業を対象とした福祉講座の開催(認知症の理解) 1回 14人	子どもたちが地域の担い手としての意識を育めるような働きかけと、実際の活動への参加を促す。
	北部圏域福祉ネットワークづくり	北部圏域福祉ネットワークの構築 地域ケア会議等参加 3地区 5回 民児協地区会参加 4地区14回	地域の福祉課題を聞き取り、必要な個別支援等につなげるなど、解決に向けた取り組みを支援する。
		担い手の育成(目標3回) 養成講座 2回 16人 有償サービス事業説明会・サポーター連絡会 1回 12人	活動が浸透するように啓発活動を行う。各圏域、地区の担い手を充実できるよう取り組む。
		しおりんサポーター 利用者登録数(市全域) 76人 サポーター登録数(市全体) 57人 北部圏域 サービス提供回数 94回 活動時間 164時間 新規相談 19件 新規登録 14件	利用者とサポーターが不安なく利用できるよう支援する。
住民同士のふれあいの場を提供し、交流を促進します。	延利用者目標31,000人/年	延利用者数 33,198人 前年度比116% 個人利用者 前年度対比 3,766人増	感染拡大予防に取り組み、安全に利用していただけるよう取り組む。 職員研修を行い、利用者対応のスキルアップを図り、利用者増に取り組む。
	すみれ食堂の運営	食事 5,013食 前年度比101% 売上 3,123,700円 前年度比127%	地元の食材を取り入れ、安心して安価な食事の提供に取り組む。食堂を利用した住民のふれあいの場を提供する。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
介護予防・認知症予防の取り組みを進めます。	高齢者の生きがいづくり 地域福祉活動の促進	生きがい講座 64回 659人 介護予防講座 44回 878人 団体への会場提供 433団体 4,432人	講座では参加者の介護予防を重点に取り組む。
	介護予防・認知症予防の推進	一般向け認知症予防講座の開催(目標 2回 100人) 2回 41人 一般向け介護予防講座の開催(目標 2回 100人) 2回 53人	楽しく、ためになる内容を取り入れ介護予防・認知症予防についての啓発を推進する。
	運動による介護予防講座の開催(目標 全4期 各10人×3教室) 健康運動教室全4期×3教室	参加者 延べ1,049人	受講中から運動を習慣化できるよう指導し、住民の健康維持を図るよう取り組む。
	認知症サポートセンター	認知症サポーター養成講座(目標15回) 開催回数 11回 参加者 77人 認知症介護相談(目標24回) 24回 相談件数16件 オレンジカフェ(目標24回) 22回 参加者144人 市内包括支援センターの認知症地域支援推進員会議 6回	認知症の啓発と相談者、当事者また介護者等の居場所作りに取り組む。関係機関とともにボランティア等支援者の育成を行い活動につなげる。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

ふれあいセンター東部

利用状況	開所日時	火曜日～日曜日 祝日の翌日、12/29～1/3除く 午前9時～午後7時	開所日数	301日
	登録者数	165人(個人)	延利用者数	15,138人(1日 50.3人)

(単位:人)

延利用人数	団体	個人	介護予防講座	地区講座	からだづくり健康教室	その他の講座	合計
令和3年度	1,026	12,286	337	230	977	282	15,138
令和2年度	860	9,604	173		1,044	161	11,842
増減	166	2,682	164	230	△67	121	3,296

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
住民参加の地域福祉活動を推進するための支援をします。	<p>東部圏域における地域福祉活動の推進</p> <p>(1) 総合相談事業</p> <p>(2) 講座の開催</p> <p>(3) 地域支え合い支援</p> <p>(4) 社協支部・分会等との連携</p> <p>(5) 住民福祉活動の推進</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防対策を行い事業を実施した。</p> <p>(1) 総合相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談区分 福祉相談 559件 ボランティア相談 17件 有償福祉サービス 114件 福祉学習 16件 地域支援 47件 健康相談 3,446件 介護相談 7件 <p>相談形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話 559件 訪問 114件 来所 45件 会議 59件 <p>(2) 講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> いきいきボランティア活動講座 4回 81人 子ども福祉講座 0回 <p>3回予定したが、コロナのため中止</p> <p>(3) 地域支え合い支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 松原区・町区 ラジオ体操 8回81人 子どもの居場所づくり・子ども食堂 3回41人 <p>(4) 社協支部・分会等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 松原区集いカフェ支援 1回14人 地域の交通手段課題について検討を行い、お買い物サロンを立ち上げた。 1回16人 支部懇談会 (3地区) 支所との打ち合わせ <p>(5) ボランティア活動支援</p> <p>ボランティア団体との打合せ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防対策を行い事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門機関、地域住民等に幅広く福祉総合相談窓口の周知を行う。 相談ケースを基に地域課題の分析を行う。 <p>地域福祉を身近なことと感ずることができるように、地域課題を基に公民館と共催し講座を行う。</p> <p>支部分会で出た課題を基に、講座や今後の地域を考える場を設け、ともに地域課題を解決できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> お買い物サロンを月に1回実施する。 <p>既存のボランティア団体や、これから、ボランティアをしたい方の思いを聞き、ボランティアセンターと連携し、支援をする。</p>

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
住民参加の地域福祉活動を推進するための支援をします。	(6) 福祉学習の推進	(6) 福祉学習の推進 ・塩尻中学校 8回 208人 ・塩尻西小学校 1回 35人 ・啓発活動 4校 8回	・福祉学習について目的を学校と共有し、取り組みがしやすいようにプログラムを提示しながら、支援する。
	東部圏域福祉ネットワークづくり (1) 東部圏域地域福祉ネットワークづくり (2) 有償サービス事業の実施 (3) 災害対策事業	・民生児童委員定例会 17回 ・有償サービス事業の実施サービスの提供 33回 活動時間 39.5時間 継続相談 45件 新規相談 12件 利用新規登録 5件 サポーター新規登録 3人 有償サービス事業連絡会 12回 有償サービス説明会 2回 ・職員研修 2回 22人 ・松原地区防災講座 1回 14人 ・地域・東保育園合同防災訓練 1回	・圏域でまとめた課題を基に関係機関と連携して解決に向けて取り組む。 ・個別ケースを地域課題として分析していく。 ご近所同士の支え合いができるような関係を作る。 ・福祉避難所の立ち上げ訓練、講座等地域と防災対策を行う。
幅広い世代の利用者に対し、健康的な生活習慣の定着を支援します。	健康づくり活動の推進 (1) 生活習慣健康講座 ①運動指導を重視した講座	(1) 生活習慣健康講座 ①からだづくり健康教室 (第1期～第4期×2コース) 91回 589人 ①ウォーキング教室 5回 30人 ①背骨コンディショニング教室 16回 139人 ①体幹トレーニング教室 10回 99人 ①筋膜リリース教室 10回 80人 ①リラックス&リフレッシュヨガ教室 1回 10人 ①朝の深呼吸ヨガ教室 6回 49人	新型コロナウイルス感染症予防対策を継続し事業を実施する。 講座終了時の利用者アンケートを生かして、健康を意識し、楽しく続けられるように運営する。 より多くの方に知っていただくためにホームページ、お便りなど活用、市と連携も図っていく。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
幅広い世代の利用者に対し、健康的な生活習慣の定着を支援します。	健康づくり活動の推進 (1)生活習慣健康講座 ②生活指導を重視した講座	(1)生活習慣健康講座 ②からだよろこぶ栄養教室 2回 38人 ②お口の健康づくり教室 2回 38人 ②睡眠教室 2回 38人	新型コロナウイルス感染症予防対策を継続し事業を実施する。 若年層が興味を持てる内容と、時間・曜日設定を工夫し企画していく。 講座終了後も運動が継続できるようにフォローアップを行う。
	(2)健康づくりリーダー研修 (3)出張型講座の開催 (4)家族で運動教室 (5)機能訓練室の運営	(2)健康づくりリーダー研修 (3)出張型講座の開催 1回 14人 (4)親子で健康づくり教室 (ママフィット with ベビー) 1回 15人 (5)個人運動利用者延べ 1,287人	
ふれあいの場を提供し、世代間交流を促進します。	世代間交流の推進	家族で作ってみよう教室 2回 26人 トールペイント 1回 6人 しめ縄づくり講座 1回 14人	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続する。 魅力ある講座を企画して、世代間交流の機会を増やす。
	利用者の福祉の増進 (1)講座の開催 ①地区講座 ②介護予防講座 (2)福祉関係団体への会場提供 (3)バス運行業務 (4)利用者からの意見・要望の把握 (5)地域交流事業 (6)入浴無料の日の実施 延べ利用者目標 12,000人/年	(1)講座の開催 ①生きがい講座 19回 236人 ②介護予防講座 ・東部シニアサークル 12回 168人 ・からだリフレッシュ体操 12回 163人 (2)21団体 100回 950人 (3)61回(往復)913人 (4)お便りの発行 3回 利用者アンケートの実施 24回 利用者懇談会の開催1回 (5)子供服のおさがり会 5回 青空マルシェ 44回 買い物サロン 1回 地域交流会 1回 (6)入浴延べ利用者15,138人 リンゴ湯 4日 ゆず湯 1日 ヒノキ湯 8日	教室受講者から自主的なグループができるように声掛けをしていく。 利用者アンケートを生かし、健康を意識し、楽しく続けられる介護予防活動内容を企画・推進・フォローアップを図る。 世代を問わず参加できる世代間交流の機会を増やす。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

訪問ケアセンター

訪問介護(介護保険)

利用状況	開所日時	毎日 午前6時～午前0時	開所日数	365日
	3月実利用者数	152人	延利用者数	23,955人(1日65.6人)
	平均実利用者数 (今年度)	157.3人/月	平均実利用者数 (前年度)	142.1人/月

介護度別延利用者数	総合事業			要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
	事業対象者	要支援1	要支援2						
令和3年度	79	2,056	2,746	2,887	4,412	4,852	2,631	4,292	23,955
令和2年度	153	1,655	3,012	3,190	4,978	4,535	3,929	3,482	24,934
増減	△74	401	△266	△303	△566	317	△1,298	810	△979

居宅介護等(障害福祉サービス)

利用状況	3月実利用者数	83人	延利用者数	8,606人(1日23.6人)
	平均実利用者数 (今年度)	79.3人/月	平均実利用者数 (前年度)	74.3人/月

区分別延利用者数	居宅介護	行動援護	同行援護	移動支援	合計
令和3年度	7,216	98	331	961	8,606
令和2年度	7,049	103	282	1,116	8,550
増減	167	△5	49	△155	56

有償サービス(制度外サービス)

利用状況	3月実利用者数	5人	延利用者数	239人(1日1.0人)
	平均実利用者数 (今年度)	7人/月	平均実利用者数 (前年度)	35人/月

	延利用者数
令和3年度	239
令和2年度	423
増減	△184

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の意向を尊重し、その人らしく 住み慣れた地域で暮らすことができる ように在宅生活を支援します。	利用者拡大の取り組み	介護保険延利用者数 23,955人 昨年度比3.9%減 実利用者数が増になっている が、利用回数が減ったため延利用者 数が前年度比減となった。 障がい延利用者数 8,606人 昨年度比0.7%増 概ね順調に事業実施できた。頻 繁な電話や訪問、急なキャンセル など対応方法が難しい利用者 の方もいる。 有償延利用者数 239人 昨年度比43.5%減 R2年度は介護保険・障がいサー ビス実施に影響が出るほど大幅 な利用者増となったが、R元年度 と同等の利用者数(R元年度利 用者数241人)に落ち着いた。	今後、団塊の世代の方が後期 高齢者になることに伴い要介護 者となり利用者が増加することが 予想されているにもかかわらず、 ヘルパー人材の不足が深刻化し ている。待遇改善や業務改善、 業務の魅力を外に伝えること で職員確保に努め、利用希望の ニーズに応えることで利用者を確認 していく。 新しい生活様式に沿って、新 型コロナウィルスの予防策を徹 底し利用者を確認をしていく。
	福祉に関わる人材の育成	介護職員初任者研修 受講者6人 実習生受け入れ 9人 実習先の確保ができなかった志 学館高校初任者研修実習を感 染対策を徹底し受け入れた。今 年度以降も社協が実習受け入れ 先となった。	福祉に興味のある学生が福祉の 担い手として活躍できるよう学び ながら働き、卒業後は福祉現場 に就職したいと思ってもらえるよう 受け入れ育成を進めていく。 介護職員初任者研修の受講者 増を図るために機会があるごとに PRをしていく。 潜在的資格取得者の人材確保 に努める。
	多様なニーズに対応するた めの職員研修と資格取得	ヘルパー研修会24回(月2回) 事務連絡、利用者の情報共有・ 相談、事例グループワークおよ び介護技術の向上のための研 修会を行う。 行動援護研修(リモート)2人 強度行動障がい支援者養成研 修(リモート)2人 職場内研修2人 福祉職員生涯研修新任職員課 程1人	障がいサービス利用者が増え ているため、障がいの特性を理 解し適切な援助が行えるよう職 員研修を実施し職員の資質向上 に努める。 情報提供・共有のために、職員 間で報・連・相に努め、信頼関係 を築き、接遇及び介護技術の向 上を目指す。 登録ヘルパーに訪問時の課題 を聞き、その解決に役立つ研修 内容を検討・実施し、業務改善 に役立てる。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

訪問ケアセンター

訪問入浴

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	255日
	3月実利用者数	24人	延利用者数	1,338人(1日 5.2人)
	平均実利用者数 (今年度)	25.7人/月	平均実利用者数 (前年度)	27.6人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障がい	合計
令和3年度	0	0	17	265	273	337	278	168	1,338
令和2年度	0	35	41	360	164	286	416	95	1,397
増減	0	△35	△24	△95	109	51	△138	73	△59

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者・家族の満足度の向上を図ります。	関係機関との連携と利用者拡大	延利用者数 1,338人 昨年度比95% ケアマネジャーや相談支援専門員に、訪問利用者の状況報告を行い、情報共有と連携を深めた。時には訪問看護等とも連携をし、利用者様により良いサービスを提供することができた。	状況報告と情報共有を行い、迅速な対応で利用者拡大を図る。 優先順位を考え業務の効率化を図り、やるべきことを確実に行う。 入浴車2台を使い効率の良いシフトを組む。 訪問の中で入浴以外での気づきも意識し、対象のサービスに繋げていく。
	利用者アンケート調査の実施	12月利用者アンケート実施 結果 満足度95% 12月ケアマネジャーアンケート実施 結果 満足度99%	利用者ニーズを業務改善に反映していく。 社協内のケアマネと意見交換をする機会等を開く。
	職員研修の実施	交通事故(車両) 1件 ヒヤリハット事例の検討、業務の見直し、定例会 12回 研修会 12回	ヒヤリハット事例の検討、事例収集を行い、事故・苦情ゼロを目標に業務を見直し、職員のスキルアップ、意欲向上に繋がる研修を行う。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

訪問ケアセンター

訪問看護

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時	開所日数	248日
	3月実利用者数	90人	延利用者数	5,969人
	平均実利用者数 (今年度)	81.3人/月	平均実利用者数 (前年度)	72.75人/月

介護度別延利用者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	医療	合計
令和3年度	205	912	838	677	449	579	1,127	71	1,111	5,969
令和2年度	251	858	574	402	429	894	1,199	49	988	5,644
増減	△46	54	264	275	20	△315	△72	15	123	318

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
看護の知識・技術の向上を図り、利用者ニーズに合わせたケアを行います。	デイサービスと連携 利用者の拡大	延利用者数 5,969人 昨年度比106% 新規利用者の依頼が、ケアマネジャーや医療機関から、毎月安定してあった。 医療度の高い利用者の確保ができたため、要支援、要介護ともに体制強化加算を算定できた。 精神疾患の利用者増加に伴い、医療保険での訪問延べ人数が増加した。 機能訓練から看護の訪問へと移行する方がおり、訪問看護導入のきっかけとなっている。	事業PR、会議等での情報交換、共有を行い新規紹介をいただく。 加算の取得を目指す。 すがのの郷、みどりの郷、田川の郷で機能訓練を行い、新規利用者の計画書はPTが作成。評価は3か月に一度、看護師が実施できるように指導していく。
	実習生の受入れによる人材育成	延4人 信州大学の学生実習を受け入れることで自己の技術の見直しが行えた。 人材育成に貢献した。	できる限り実習生を受入れ、自己研鑽を行い、地域の人材育成に貢献する。
	タブレットの導入 職員研修の実施	9月からタブレットを導入し、10月には利用者全員をタブレット入力に変更でき、計画書等の様式が統一できた。 請求もスムーズに移行ができた。 毎朝の申し送りの他、毎月の定例会で情報共有を図った。 定期的にヒヤリハット事例検討、研修報告等を通じ職員の看護の知識・技術の向上を図った。研修報告・検討12回、外部研修6回 利用者アンケートを行い、調査とニーズの掘り起こしを行った。 利用者満足度91%	外部研修 多職種、他ステーションとの懇談会に参加し、情報交換と共有を引き続き行う。 精神科看護の導入に向けて研修に参加していく。 次年度も利用者アンケートを行い、業務改善と知識、技術の向上を図る。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業者名)

すがのの郷

老人デイサービスセンター(定員25人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	359日
	登録者数	57人	延利用者数	5,918人(1日16.5人)
	平均実利用者数 (今年度)	57.8人/月	平均実利用者数 (前年度)	59.1人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業	合計
令和3年度	0	0	1,006	1,459	904	1,291	299	959	5,918
令和2年度	0	0	1,436	1,347	1,583	482	264	1,105	6,217
増減	0	0	△ 430	112	△ 679	809	35	△ 146	△ 299

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の健康・介護状況を把握し、個々に合わせたサービスを提供します。	利用者拡大の取り組み 延利用者数値目標 6,420人/年	延利用者数 年間 5,918人 新規利用者数 年間 26人 中止利用者数 年間 17人	新規利用者を紹介いただけるよう空き情報をHPやケアマネに提供するとともに、檜川地区の利用者獲得のPRをしていく。 利用者やケアマネージャーへのアンケートでいただいたご意見を参考に、ニーズに対応したサービスの検討を行う。
	利用者・家族からの意見・ニーズ把握	家庭介護者へのアンケート 1回 ケアマネージャーへのアンケート 1回 利用者・家族へのアンケート 1回	アンケートでの満足度は概ね高評価をいただいた。今後も迅速で丁寧な対応をするだけでなく、研修を定期的に行い、職員一人ひとりの資質を高めていく。
利用者の希望や趣味、特技を生かしたレクリエーションの実施に加え、生活機能の改善に向けて取り組みます。	身体機能の維持・向上のプログラムの提供 延利用者数値目標 1,842人/年 口腔維持・向上のプログラムの提供 延利用者数値目標 900人/年	個別機能訓練加算 延2,090人 口腔機能向上加算 要介護 延849人 総合事業 延 57人 計 906人	昨年秋に導入した新システムを活用し、記録管理を効率的に行うとともに、身体状況に応じたプログラムの提供が適宜できるよう、社協理学療法士と連携し、評価・アセスメントを行い、機能維持・機能向上を図る。
地域福祉を推進する施設として、地域の課題発見に努め、家族と地域との関わりの中で課題解決を図ります。	介護相談、介護情報の提供	地域へむけての介護予防体操の紹介 3回 1,980部 介護者教室 「認知症について」 11人	施設便りで介護情報を内容に盛り込むだけでなく、介護予防や介護に役立つ情報の提供を地域の方に向けて定期的に行っていく。
	ボランティア・実習生の受入れ	地区ボランティア 延6人 個人ボランティア 延39人 実習生 延16人	引き続き感染防止対策を行いながら受入れを行うとともに、来所での活動に不安があるボランティアの方には新しい活動を示せるよう検討を行う。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

西部地域包括支援センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
	登録者数	350人	延利用者数	3,044人
	平均実利用者数 (今年度)	253人/月	平均実利用者数 (前年度)	240人/月

介護度別延利用者数	事業対象者	要支援1			要支援2			総計
		直	委託	計	直	委託	計	
令和3年度	277	491	564	1,055	569	1,143	1,712	3,044
令和2年度	296	431	495	926	498	1,167	1,665	2,887
増減	△19	60	69	129	71	△24	47	157

介護度別延利用者数	総合事業				介護予防支援事業			総計
	事業対象者	要支援1	要支援2	計	要支援1	要支援2	計	
令和3年度	277	342	213	832	712	1,500	2,212	3,044
令和2年度	296	237	224	757	653	1,477	2,130	2,887
増減	△19	105	△11	75	59	23	82	157

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域包括ケアシステムの拠点として、高齢者をはじめ地域で暮らす皆さんの暮らしのサポートをします。	総合事業 延利用者数値目標 (西部地域包括)504人/年 (外部委託)264人/年	総合事業 延利用者数 (西部地域包括)566人 (外部委託)266人	利用者の思いを大切にし、地域の社会資源も活かしながら住み慣れた地域での生活が続けられる支援を行う。要支援から要介護となっても切れ目のないサービスが継続できるよう、関係者との情報共有を密にし連携する。
	介護予防支援事業 延利用者数値目標 (西部地域包括)744人/年 (外部委託)1,584人/年	介護予防支援延利用者数 (西部地域包括)755人 (外部委託)1,457人	
	生活支援体制整備事業	西部圏域社会資源まとめ 1冊 生活支援コーディネーターとの連携	行政・生活支援コーディネーターと連携しながら、西部圏域の課題整理を行い、地域の関係機関と連携しながら課題解決を図る。
認知症総合支援	オレンジカフェ参加 6回 アルツハイマー月間展示1回 介護者教室「認知症について」 2回	地域の方を対象とした認知症への理解を深めていけるような研修の計画。地域での見守りのネットワークができるようなしくみづくりを進める。	

<p>西部圏域の最も身近で何でも相談できる窓口となります。</p>	<p>総合相談支援業務 年間目標 500件</p>	<p>相談件数 年間 509 件</p>	<p>身近な相談窓口となるよう、センターのPRを行うとともに、3職種の専門性を高めるため研修に参加し、様々な相談に対応していく。</p>
	<p>介護・福祉の広報・啓発</p>	<p>ミニデイ参加 延べ19か所 チラシの配布 40か所</p>	<p>地域の方に包括支援センターの役割を知っていただき活用いただけるよう、HPや定期的な訪問を通じPRする。</p>
	<p>地域交流スペースの提供</p>	<p>檜の実開所日数 217日 来所者数 248人 介護予防教室 9人</p>	<p>檜川地区の方々に檜の実を活用していただけるよう、チラシ回覧の継続や、研修や介護予防教室を定期的の実施。</p>
<p>地域の意見を幅広く汲み上げ、地域課題を把握し、顔の見える関係を作り、ネットワークを構築することで課題解決を目指します。</p>	<p>権利擁護業務 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務</p>	<p>民児協地区会参加 20回 虐待ケース対応件数 10件 困難事例対応件数 15件 地域ケア個別会議 2回 福祉避難所の説明 桔梗ヶ原区 1回</p>	<p>民児協地区会だけでなく地域で行われる会合には機会があれば参加し、包括支援センターの役割を理解していただく。独居高齢者や老々介護、虐待ケース等速やかにセンターに繋いでいただくことで、迅速に対応できる関係作りを行う。</p>

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

田川の郷

老人福祉センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後4時	開所日数	232日
延利用者数	団体	個人	講座	合計
令和3年度	0	8,326	0	8,326
令和2年度	0	7,912	0	7,912
増減	0	414	0	414

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
福祉避難所として災害時に役立つ拠点施設となります。	地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災会議に出席し情報交換を行った。 ・吉田地区の防災地図等を掲示し防災意識の向上を図った。 ・福祉避難所としての役割等職員間で再度確認しデモンストレーション研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止案を講じた中での避難所運営の方法を、地域の方々と共に作り上げていく。
住み慣れた地域で、こころの拠り所となる居場所作り・集まる場所となります。	地域との交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・田川の郷あつたかまつりは新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止とした。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した。 ・来館者へも感染症予防対策の理解を求め確実に実施した。 ・密となる娯楽機器の貸し出しを中止した。 ・自主講座 延66人 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策を確実に実施し、更に利用者の意識向上を促していく。 ・短時間での居場所や集える施設とする。 ・自主講座の代表者と情報を共有し、無理のない講座運営を依頼する。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

田川の郷

老人デイサービスセンター(定員25人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	357日
	登録者数	44人	延利用者数	4,762人(1日13.3人)
	平均実利用者数 (今年度)	48.9人/月	平均実利用者数 (前年度)	48.0人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業	合計
令和3年度	0	0	1,314	1,526	732	269	418	503	4,762
令和2年度	0	0	1,107	1,619	578	478	468	688	4,938
増減	0	0	207	△93	154	△209	△50	△185	△176

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の思いに寄り添いその人らしさを尊重した介護サービスを提供します。	医療依存度が高い利用者の 率先受け入れの実施 利用者数値目標5,008人	延べ利用者数 4,762人 令和3年12月下旬以降、新型コロナウイルス感染症関連で休まれる方が増加した。医療依存度の高い利用者の入院が複数名あり、長期入院後は他界もしくは施設入所を選ばれる方が多かった。	来なくなるデイサービス内容をリサーチし、職員も田川の郷を利用したいと思えるデイサービスを作成していく。 ケアマネへのアンケートで、医療依存度の高い方の受け入れの評価が高いので引き続き行っていく。 医療依存度の高い方を受け入れると突然終了となることもあるため、一般利用者との受け入れ拡大のための継続企画を実施する。
	口腔機能向上サービス・個別機能訓練の実施	口腔機能向上加算 利用者、職員向けに歯科衛生士に依頼し口腔機能維持の講演を開催した。職員が啓発勧誘を行った。 446回実施 個別機能訓練加算 理学療法士と看護師が自宅を訪問し機能訓練の説明、勧誘を行った。 285回実施 複数実施加算 総合事業利用者へ、理学療法士、看護師、介護職員で勧誘を行った。 61回実施。	新規利用者及び現在利用中の方へ確実に加算内容の有効性を伝えるセールスができる職員を育てる。 総合事業利用者へは単独ではなく口腔機能向上サービスと運動器機能向上サービスの複数実施促進への移行を行う。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
<p>研修参加と情報共有により、職員がスキルアップし、質の高いサービスを提供します</p>	<p>職員研修の実施</p>	<p>月1回職員が講師となりレベルアップに向け研修を行った。 併せて事例検討を行い利用者の処遇向上を図った。</p>	<p>医療依存度が高い利用者を受け入れることで、職員の技術向上が求められている。引き続き職員間で研鑽できるよう研修を行う。</p>
<p>住民に、交流・相談・学びの場を提供することにより、地域に根付いた信頼される施設をつくります。</p>	<p>交流の実施</p>	<p>田川の郷あつたかまつりは新型コロナウイルス感染症が終息しないため、中止とした。 介護者交流会は、利用者アンケート結果では新型コロナウイルス感染症が終息してから開催してほしいとの要望が多かった為中止とした。 介護者交流会の代替として介護上での悩み相談として常時相談を受け付けることと、お悩み何でも相談窓口と相談用紙を配布しその都度お答えした。 相談件数 18件</p> <p>ボランティア 4団体延173人 芸能ボランティア 0人 利用者様の楽しみの行事であるため、職員が芸能を披露した。</p>	<p>家庭介護教室・介護者交流会については、今後の情勢に合わせた実施方法を考える。 ボランティアには、来館時の体調調査、検温、指手消毒、うがいの実行、マスク着用を確実に行っていただきながら活動をしていただく。今後も感染対策を継続しながら、受け入れていく。 芸能ボランティアは利用者様の楽しみの行事であるため、今後は状況を勘案しながら受け入れの可否を判断する。</p>

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

みどりの郷

老人デイサービスセンター(定員25人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	359日
	登録者数	62人	延利用者数	6,255人(1日17.42人)
	平均実利用者数 (今年度)	58.5人/月	平均実利用者数 (前年度)	60.75人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業	合計
令和3年度	0	0	1,097	1,712	871	726	522	1,327	6,255
令和2年度	0	0	1,545	1,890	355	517	686	1,303	6,296
増減	0	0	△448	△178	516	209	△164	24	△41

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の要望に沿って、個々のニーズに合わせた介護サービスを提供します。	利用者拡大の取り組み 延利用者数値目標 6,604人/年	<ul style="list-style-type: none"> ・延利用者数 6,255人 ・ケアマネ事業所へ定期的に訪問し、利用者の状況報告及び、施設の取り組み状況を紹介しPRに努めた。(パンフレット、お便りの充実) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの健康状態や行動の変化に気を配り、きめ細かいサービスを提供する中で、家族、関係機関等との情報交換を重ね、信頼関係を築く。
	選択できるレクリエーションメニューの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の希望に合わせて、素材の提供を行った。また、そのための人材確保に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味や関心のあることについて、定期的に情報収集を行い、個々の希望に合わせた余暇活動の充実に努める。
機能訓練及び口腔ケアの実施により、利用者の身体機能の維持・向上を目指します。	機能訓練、口腔機能向上サービスの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・個別機能訓練加算 延 551人 ・口腔機能向上加算 延 799人 ・総合事業 延 133人 計 932人 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活動作が維持できるための機能訓練として、小グループによる取り組みについて体制の整備を図る。 ・口腔機能の向上について、分かりやすく説明を行い、効果を感じられる様に努める。
地域住民との交流の機会をもち、心の活性化を目指します。	地域交流事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・広陵中学校交流会1回16人 ・志學館高校交流会1回17人 ・桔梗荘太鼓鑑賞 1回 12人 ・歯科大実習生受入延26人 ・個人ボランティア 延145人 ・団体ボランティア 7組23人 ・地区ボランティア 2件 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を徹底し、計画、内容等工夫をしながら、交流の機会を設定する。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

つくしの郷

老人デイサービスセンター(認知症対応型 定員12人)

利用状況	開所日時	午前8時30分～午後5時30分	開所日数	358日
	登録者数	33人	延利用者数	3,657人(1日10.2人)
	平均実利用者数 (今年度)	36.1人/月	平均実利用者数 (前年度)	31.2人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未定	合計	宿泊
令和3年度	0	63	1,064	454	498	1,243	311	24	3,657	280
令和2年度	0	9	897	392	604	1,247	167	8	3,324	328
増減	0	54	167	62	△106	△4	144	16	333	△48

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
認知症を抱える方や、そのご家族が地域で安心して暮らすことができる支えとなるために、安心・安定した経営を実施します。	延利用者数値目標 3,400人/年	延利用者数 通所 3,657人 宿泊 280人	紹介のないケアマネからの意見を参考に選ばれる施設なるよう職員へ周知する。
	運営推進会議の実施	1回開催 利用状況の報告及び要望を伺った。 コロナウイルス感染予防のため1回中止	いただいた意見を参考に、利用者や家族にとって、安心して利用できる施設になるよう、職員へ周知し、改善する。
利用者一人ひとりの理解を深め、ニーズに沿ったサービスを提供し、その人らしく在宅生活を送ることができるよう支援します。	身体機能及び口腔機能の維持・向上のためのプログラムの実施	個別機能訓練 3,640回実施 口腔機能向上サービス 492回実施	生活習慣を維持できる機能訓練に努める。 歯科衛生士による週1訪問と職員研修を実施し、口腔衛生の充実に努める。
認知症及び閉じこもり予防のため、定期的に通所したくなるような、おでかけサロンを実施します。	つくしのおでかけサロン	おでかけサロン実施回数 36回 実利用者数 6人 延利用者数 138人	利用者主体のプログラムを提供する。 関係機関と連携をとり情報を共有する。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

つくしの郷

認知症予防推進

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	358日
------	------	----------------------------	------	------

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
地域住民が認知症を正しく理解し、認知症の方が地域で安心して暮らしていくことができるよう支援します。	やすらぎ支援員の活動	派遣回数 26回 登録者数 1人 支援員数 4人 新型コロナウイルス感染予防のため、家族と相談しながら派遣した。	介護者の負担軽減のため、家族や本人の話し相手となり、心理的サポートをする。 また、家族や関係機関への情報提供を行う。
	認知症の啓発、人材育成 認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座 開催回数 6回 延べ参加者数 132人	過去、養成講座に申し込みのあった団体へ開催の協力をお願いしていく。 認知症の理解を深め、地域を支える体制づくり(人材育成)の為、引き続き開催していく。 また、新型コロナウイルス感染症予防に努めながら開催する。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

居宅介護支援事業所

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
	3月実利用者数	295人	延利用者数	3,506人
	平均実利用者数 (今年度)	292人/月	平均実利用者数 (前年度)	287人/月

介護度別延利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和3年度	433	738	822	622	455	273	163	3,506
令和2年度	367	665	872	659	403	293	186	3,445
増減	66	73	△ 50	△ 37	52	△ 20	△ 23	61

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者・家族の意向を尊重し、自立支援の視点を大切に、様々な社会資源の活用、多職種との連携により在宅生活が継続できるよう支援します。	利用者・家族からの意見聴取	利用者アンケート1月に実施 回答率93%を得る。	職員の接遇、資質、事業所の対応等についてアンケート実施。いただいた意見を検討し、より良い対応ができるよう取り組む。
	関係機関との連携の推進	行政機関や、医療、福祉等の関係者との会議に参加し、情報共有し連携を図った。 ・入院時連携 49件 ・退院時連携 34件 ・通院時情報連携 12件	地域包括支援センター、医療機関、サービス事業者等の会議出席や情報共有を行い、利用者の在宅生活を支援していく。
質の高いケアマネジメントを提供できる体制をとり、事業所加算が継続できる事業所となります。	事業所・職員の資質の向上	【内部研修】 ・スーパービジョン 2回開催 ・ハラスメント研修 ・メンタルヘルス研修 ・感染症対策研修 【外部研修】 ・ケアマネ勉強会 10回参加 ・他事業との事例検討会 6回参加 【職場内会議】 週1回実施 ・事例検討困難ケース ・制度改正に伴う学習 ・福祉用具研修 【実務者研修の協力】 ・介護支援専門員実務研修 2人受入	介護保険サービスだけでなく、それ以外のインフォーマルサービスとのネットワーク作りを行う。 社会資源もマネジメントの中で提供、提案できることで、利用者にとって快適な暮らしが出来るようにする。 職場内会議を定期的に行い、事例検討、内部研修等により情報の共有を行い職員の資質向上を目指す。
新規利用者の受け入れに向け、事業所のPRを積極的に行います。	広報啓発 介護・福祉の啓発	・檜の実出張所 相談12回 ・ホームページの更新(ケアマネだよりの発行、講座周知13回) ・介護講座11月実施(食事の大切さ) ・施設の介護相談 1回参加	地域包括支援センター、各サービス事業所や地域福祉事業等に事業所のPRを行い新規利用者を獲得していく。檜の実出張所での相談を継続する。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

すみれの丘

地域活動支援センター

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
	創作講座延利用者数	548人(前年度509人)	障害者相談延利用者数	512人(前年度459人)
	居場所参加者数	65人(前年度 86人)		

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
1 生きがいを感じ、楽しく参加できる講座とします。	講座の開催	料理A 22回 82人 料理B(すみれ・しおりん) 22回 65人 クラフトバンド 20回 149人 音楽 22回 252人	料理講座が調理実習ができない状況であるので、内容の検討が必要
2 障がい者又はその家族が抱えている問題や思いが、気軽に寄せられる窓口となり、他機関と連携しながら地域で安心して暮らすことができるよう支援します。	・障害者相談 障害福祉サービスの利用、就労、余暇の過ごし方、家族のことなど生活全般についての相談に応じ、問題解決の道を一緒に考えます。 ・障害年金相談	相談・訪問等件数 512件 居場所の提供、交流会開催数 12回 相談件数 5件	交流事業への参加を呼びかけ、利用者が安心して参加できる機会をつくる。

生活介護事業所すみれの丘(定員20人)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
	3月実利用者数	17人	延利用者数	3,106人(1日12.8人)
	平均実利用者数(今年度)	18.6人/月	平均実利用者数(前年度)	19.3人/月

	延利用者数
令和3年度	3,106
令和2年度	3,231
増減	△125

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
2 希望者への入浴サービスを提供することで、清潔保持します。	入浴サービス	81.5回/月 (前年度80.3回/月)	介護者の負担を軽減することや本人の清潔を保つ為継続する。
1 利用者の特性に合わせた活動を実施します。 3 利用者、家族、職員とのつながりを密にし、信頼関係を深めます。	野外活動 施設内行事 健康管理	散歩(可能な限り毎日) 外出 3回 食事会 4回 誕生日会 11回 運動教室 2回 オープンなずな 1回 体重測定 12回 歯科指導 2回 内科検診 2回	個人目標に沿って支援を行い、地域とのつながりを取り入れて実施 感染対策を行い、利用者の健康管理に努めていく。
4 ケアマネジメント連絡会等でサービス内容について周知を図ると同時に、体験利用を積極的に受け入れることで利用者獲得を目指します。	施設便りの発行・体験受け入れ	施設便りの発行 12回 関係機関への周知 1回 ○実習生 ・松本寿台養護学校 現場実習 2年1名、1年1名	中途利用者の獲得、養護学校卒業生の新規利用につなげる。

児童発達支援事業所あすなろ園（定員10人）

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分		開所日数	242日
	児童発達支援	3月実利用者数	27人	延利用者数	937人（1日 3.9人）
	放課後等デイサービス	3月実利用者数	17人	延利用者数	1,271人（1日 5.2人）
	合計	44人		2,208人（1日 9.1人）	
	平均実利用者数 （今年度）	45人／月		平均実利用者数 （前年度）	41人／月
	ことばの教室 延べ利用者数	192人			

	延利用者数
令和3年度	2,208
令和2年度	1,794
増減	414

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
1 一人ひとりの成長に合わせた支援・相談を行います。 2 家族の気持ちに寄り添い、相談できる体制を作ります。	集団療育、個別支援	・児童発達支援 作業療法 26人 言語訓練 167人 理学療法 15人	より良い日常生活を送ることができるよう、関係機関と連携して訓練を行う。言語訓練増加傾向 待機者4名
		・放課後等デイサービス 作業療法 51人	作業療法士が退職、後任が見つかり次第再開予定
	ことばの教室 ことばの発達等に気がかりな子どもたちに対し、言語聴覚士が個別に対応します。	延利用者数 192人	申請が増加傾向、受け入れに限度があり、人材確保が必要

指定相談支援

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後5時		開所日数	242日
	指定特定相談	3月実利用者数	45人	延利用者数	459人（1日 1.9人）
	障害児相談	3月実利用者数	16人	延利用者数	173人（1日 0.7人）
	合計	190人		632人（1日 2.6人）	

	延利用者数
令和3年度	632
令和2年度	684
増減	△52

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
1 ニーズを的確に把握し、その方の長所や得意なことをいかし、その方らしい生き方ができるような計画を立てます。 2 地域で安心して生活ができるよう他の機関や支援者と連携して、利用者の変化に的確に対応します。	サービス利用計画の作成 他機関との連携	計画作成 延330件 連絡調整 2,497回 支援会議 157回 訪問・面談 632回 ケアマネ連絡会 5回 相談支援専門員会議 6回 所内打合せ 週1回以上	他機関と連携し、地域の中で安心してその人らしい生活ができ、生活の質の向上につながる支援をする。

就労継続支援B型（定員25人）

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分	開所日数	242日
	3月実利用者数	25人	延利用者数	5,506人(1日 22.7人)
	平均実利用者数 (今年度)	26.8人/月	平均実利用者数 (前年度)	24.1人/月

	延利用者数
令和3年度	5,506
令和2年度	5,865
増減	△359

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
一人ひとりの気持ちを受けとめ、その方に合った支援を行います。	個別支援計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> サービス等利用計画をもとに本人の意向に沿った個別支援計画を作成し、職員全員に周知し、目標に沿った支援を行った。 新しい作業に挑戦した 個々のできる範囲で作業に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が何を目標にするのか、職員間の意識の統一を図り、目標の達成を目指す。
働くことの意義や喜びを習得できるように支援します。	地域事業所との連携事業への参加	<ul style="list-style-type: none"> ○施設外就労の継続 ・塩尻市農福連携…ネギ畑の草取りを行い、個々の特性や適応できる力・やり続ける力を見て知ってもらえた。 ・清掃作業(みどりの郷・ヤマト・事務局) ・市役所古紙回収、花壇整備 ・レタス袋詰め ・箱作り ・パッケージ ・ネギ袋詰め ・ぶどう箱詰め 	<ul style="list-style-type: none"> 作業を通じて地域へ出向くことを継続することにより新たな依頼へつなげていく。働く意義や喜びにつながるようにする。 自主製品作業中心の利用者に新たな作業の発掘をすすめる。
	受託生産活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内外受託作業 ・箱折(ワイン、百貨店お中元・お歳暮贈答用の箱・線香の箱)受注継続。 ・ネギのシール貼り 	<ul style="list-style-type: none"> 受託作業の技術向上と、生産量の増加により、安定した収入と工賃の安定を図り達成感を得られるようにする。 コロナ禍長期化により受託量の減少。室内作業継続ができるよう受託先を開拓する。
障がい者への理解が深まるよう、地域へ出て交流の機会を作ります。	余暇支援、地域交流活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭り等コロナ禍のため中止 →周辺清掃により地域の人や保育園の先生との交流ができた。 ・食事会(ラーメン) 1回 ・テイクアウト昼食会 3回 	<ul style="list-style-type: none"> すみれそよ風まつりの開催 ・感染症対策を徹底し、外出等に代わる活動を設けていく。 ・作業やコロナ禍のストレス解消に、テイクアウトを定期的実施する。状況により食事に出かける。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
障がい者への理解が深まるよう、地域へ出て交流の機会を作ります。	余暇支援、地域交流活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・カレー会の開催 収穫野菜と、塩尻桔梗ライオンズクラブ寄付によるじゃがいも、イオン幸せの黄色いレシート寄付のギフトカードにより材料を購入 ・お花見 ・ネットワークを通じて毎月1回の販売会の機会を得た。 ・地域行事に販売で参加し事業所を知ってもらう機会を作れた。 ・定期的なホームページの更新、お便りを施設内外取引先等に配布回覧、作業内容等の様子の紹介を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売会の定着化 ・ホームページに最新情報の掲載を継続する。 ・FAX注文での自主製品の受注販売を継続しているが現在休止中
障がい者への理解が深まるよう、地域へ出て交流の機会を作ります。	ボランティア・実習生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○実習生 ・松本寿台養護学校 現場実習 前期:3年2人 後期:2年1人 ・松本ろう学校 現場実習 前期:3年1人 ・松本盲学校 現場実習 前期:3年1人 ・松本養護学校 現場実習 前期:2年1人 後期:2年1人 ○体験利用者 1人 ○ボランティア(小学生、中学生)3人 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を行いながら積極的に受け入れることで、職員育成、新規利用につなげていく。 ・R4年度通所希望者2名、計画相談へ空き情報発信し新規獲得を図る。

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

そよ風の家

就労継続支援B型(定員20人)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後4時	開所日数	238日
	登録者数	36人	延利用者数	5,010人(1日 21.1人)
	平均実利用者数 (今年度)	39.0人/月	平均実利用者数 (前年度)	36.5人/月

	延利用者数
令和3年度	5,010
令和2年度	4,655
増減	355

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
利用者の思いや希望を大切に、安心して利用できる環境づくりに努めます。	生活支援 各種行事の開催 地域との交流事業	<ul style="list-style-type: none"> 『はなしてみるかい』開催12回 参加 延べ47人 すみれそよ風まつり 中止 長野県障がい者文化芸術祭に作品を出展 3人 テークアウト(天ぷらうどん、ぱん、デザート)3回 販売会 30回 えんてらすマルシェ ふくふくマーケット ポッチャ競技大会 松本養護学校 他 	新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、メンバーからの要望があった、うどん、パン、デザートのテークアウトを行った。また、県芸術祭に3人ものメンバーが作品を出展することができた。今後も状況にあわせてできる取り組みを継続していく。
	個別支援計画の作成	利用者とともに見直しを行い、個々の状況に合わせて、より具体的な取り組み表現とした。	利用者の希望する生活及び課題等の内容に基づき、適切な支援内容を検討する。
	ボランティア・実習生の受入れ	実習生(松本短期大学) 1人 体験利用者受入れ 5人 新規利用者受入れ 4人	昨年に引き続き、保育士取得のための施設実習を受入れた。年度初めに体験から利用につながったメンバーが4人。その他、契約の準備はできたが、初日の利用につながらない利用者もいる。
	他機関との連携	福祉課・保健師・病院・就業支援ワーカー・ボイス・成年後見支援センター等と情報交換及び報告を行い、利用者の課題解決に向けて検討を行った。	困難事例、利用者理解を目的に外部講師(ボイス)をお願いしてケース検討会を4回実施した。引き続き、関係機関と連携することで利用者の課題解決に取り組む。

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
作業を通して社会参加を促し生きがいや達成感を感じることができるよう支援します。	生産活動の実施	施設外作業 清掃作業 4か所 除草作業 3件 市役所花壇整備、古紙回収	新型コロナウイルス感染症予防の対策を行いつつ(検温、マスク、手洗いなど)施設外での就労の機会を確保していく。 工賃だけではなく、やりがいや達成感を得られるような作業種の確保も必要 メンバーの特性を活かした、自主製品の開発も行っていく。
		施設内作業 企業受託 7件 自主製品の製造(ポストカード、干支のキーホルダー など) 農作業(ジャガイモ、ネギ) 印刷	
		クッキーハウス作業 地区からの注文	新商品(はちみつケーキ)が完成して、販売することができた。 販売会が減少しているのを、引き続き、地区からの注文が頂けるようにPRをしていく。 材料費が高騰しているのを、売り上げ確保のためにも価格についての検討が必要

令和3年度の事業所事業報告

所属名
(事業所名)

みどりが丘

就労継続支援B型(定員20人)

利用状況	開所日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後4時	開所日数	242日
	登録者数	28人	延利用者数	4,303人(1日17.8人)
	平均実利用者数	27人	(前年度)	16.5人

	延利用者数
令和3年度	4,303人
令和2年度	4,005人
増減	298人

事業所目標	主な事業	実施状況	今後の方向性
新しい生活様式にあった営業展開と感染症対策の徹底	生活支援 各種行事の開催 地域との交流事業	マスク着用、手洗いと検温の実施、黙食を伝え感染対策の意識を持っていただいた。 楽しむ行事が中止になる中、近隣の店舗の見学・買い物を楽しむ支援の企画を実施した。	健康管理に関心が持てる機会を作る。行事開催時は感染症対策をしっかりと行い楽しんでいただく。
利用者の「自立」と「地域生活」を応援します。	他機関との連携	病院からの紹介で通院・退院を控えている患者の体験を受け入れ利用につなげた。感染症予防のため支援会議が行われない期間、利用者のサービス状況をより丁寧に報告書で伝えた。 相談支援専門員との連携により、引きこもりの方の通所を開始・継続した。	ハローワーク・障がい者就労、生活支援センター等の機関との連携。体験等の相談があった時に迅速に対応していく。 3障害受入の施設でできることを検討していく。
	個別支援計画の作成	利用者の状態の変化に応じて、計画の内容を見直し、アセスメントすることで支援の方向性を計画にて見える化し、本人・家族・支援者間で共有した。 計画作成28人(うち新規7人)	利用者にとって何を目標とするか支援者間の意識統一と情報の共有を行なう。

